

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTBビル 7F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX : 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻 頭 言

日本産業衛生学会は今世紀半ばをどう迎えるのか

愛知医科大学 医学部 衛生学講座 柴田 英 治



わが東海地方会は来年に開催される第 92 回日本産業衛生学会の準備が本格的に始まっています。私が日本産業衛生学会に入会してから 1995 年、2004 年、2012 年に東海地方会が担当し、私自身も企画、運営に関わりました。7~8 年の期間を置いての開催となっていますが、この二十数年の間にわが国の産業衛生研究と実践をめぐる情勢は当然のことですが、複雑さを増し、一筋縄ではいかないものになっているようです。そろそろ次のパラダイムを考えなければ学会に課せられた社会的な責任を果たせないのではないかと感強くしています。

この分野の特徴は第 1 に実学であること、すなわち社会に直接的に貢献することが求められていることだろうと思われます。全ての働く人々の健康を守り、より豊かな労働生活を送ることができるために何が必要かを常に考えなければならないことです。第 2 は多数の専門職、関連分野の共同作業が必要な学際的な分野であることです。実践活動の中から課題を見つけ、解決への道を示すとともに、より良いあり方を様々な専門家、分野と連携しつつ、追求するというのが大きな特徴です。

確かに学会での研究、実践交流は進んできましたが、今後一層の発展のためにはこれまでの枠組みを超えた連携と交流が必要であると感じることが多くなりました。

た。恐らく今後もずっと課題であり続ける小規模事業場、非正規雇用労働者、外国人労働者の健康の問題に取り組む人材は他の分野と比べて少ないこともあり、その必要性に比べて成果が十分に上がっていないのではないかと心配しています。地域保健分野、社会科学分野、NPO の実践家などとの交流をさらに密にし、多くの学会員が新たな展望を見据える中で今世紀半ばを迎えたいものです。



開催報告

平成29年度日本産業衛生学会東海地方会に参加して

キヤノン(株)富士裾野リサーチパーク 産業医 池田友紀子



2017年11月11日に、名古屋市立大学において、上島通浩先生を学会長として東海地方会が開催されました。私は午後からではありますが、参加させていただきましたのでご報告いたします。

基調講演では愛知医科大学衛生学講座の鈴木孝太先生より「女性のライフステージに応じた働く女性のサポート」というテーマで、産婦人科の臨床の立場・産業保健に携わる立場の両面から、女性ホルモンとライフサイクルについて基礎的な知識をご講義いただいた後、女性のライフステージに応じて、具体的にどのような支援が必要とされるのかを分かりやすくお話いただきました。また、胎児期・出生後早期の環境がその後の健康状態や疾患に影響するというDOHaD説をご紹介頂き、次世代の健康を意識した禁煙指導、職場の禁煙を進めていく必要性を示されていました。昨今、女性活躍推進が行われており、女性の健康管理のニーズが高まっています。女性自身の健康だけでなく、次世代の健康をも見据えながら、産業保健の現場でできる支援を考えていきたいと思いました。

シンポジウムでは「携帯型デバイスが拓く産業保健活動の新たな可能性」というテーマで、3名のシンポジストがご講演されました。まず、「ウェアラブル端末による化学物質曝露とその影響測定の最前線」と題して、



基調講演：鈴木 孝太先生

中山祥嗣先生(国立研究開発法人国立環境研究所)がご発表されました。化学物質曝露測定や健康測定にもウェアラブル端末を使用する動きが出ており、爪先程度の大きさのセンサーでガス状物質の測定ができるようになってきていることをご紹介頂きました。次に、「スマホ内蔵センサーによるライフログ・データ解析の産業保健応用」と題して、榎原毅先生(名古屋市立大学)がご発表されました。この中では、スマホに内蔵されている様々なセンサーをご紹介頂いたのち、スマホアプリでのリアルフィードバックを活用してご自身の体重減量に成功した事例、スマホアプリを活用した頸肩部筋骨格系症状予防策に関する研究をご紹介頂きました。最後に、「携帯機器による生体信号モニタと健康寿命」と題して、早野順一郎先生(名古屋市立大学)が



地方会総会の風景

ご発表されました。この中では、40万件の24時間心電図のビッグデータを解析し、健康寿命と心拍変動の間には男女とも関連があり、心拍変動は平均寿命よりも健康寿命の長さに関連する生物学的特性を反映している可能性を示唆するという興味深いご報告がありました。

携帯型デバイスという言葉は私にとっては馴染みがなく、正直とつきにくい話を想像していましたが、今回のシンポジウムを聞き、産業保健活動にとって身近な存在になりつつあることを認識することができ、大変有意義な時間となりました。



地方会会場風景

東海地方会産業歯科部会からのご報告 産業歯科部会第12回研修会を開催して

愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座 加藤 一夫



2017年10月22日、名古屋市千種区のルブラ王山において開催されました産業歯科部会第12回研修会についてご報告させていただきます。

この産業歯科部会は、平成17年度、当時日本産業衛生学会東海地方会会長であった井谷徹先生から、金山敏治先生に「産業歯科部会」設立の提案があり、準備期間を経て、翌18年度に発足いたしました。そして、産業歯科部会の活動のひとつの柱として、初年度より、毎年1回研修会を開催しています。

この研修会では、これまで、講師をお招きしての産業保健に関わる講演会や、東海地域で歯科医療機器や素材を扱う工場の見学といった企画を通じて、会員の資質向上と親睦を計ってきました。12回目を迎えた今回は、日本混合研究法学会理事でもあります浜松医科大学健康社会医学講座の尾島俊之先生を講師にお招きして、混合研究法に関する勉強会として開催いたしました。東海地方会における歯科医師の会員数は、現在21名と少数ではありますが、12名の参加がありました。

混合研究法は、比較的新しい研究手法であり、私たち会員にとって、一見馴染みの薄いテーマでしたが、尾島

先生より、具体的な事例を挙げながら、わかりやすく解説していただき、量的アプローチと質的アプローチを統合することにより、それぞれのアプローチを超えた理解が得られる有用性の高い研究方法であることや、その一方で、混合研究法には様々な研究デザインがあり、それをどのように応用するかについて、異なる考え方の存在する発展途上の研究方法であることなどを知ることができました。とりわけ、産業保健活動における職場巡視や保健指導を通じて得られる情報の多くが質的データであるという点に注目すれば、混合研究法の手法は従来の保健医療活動における活動の評価や対応策の検討にも有用であるという先生の話は会員にとって重要な知見であったと思います。

当日は台風21号が東海地方に接近する中、一時は開催も危ぶまれましたが、幸い大きな混乱もなく無事終えることができました。研修会の後、尾島先生を囲んで、昼食を取りながら懇親会が行われました。学術的な話に触発され、会員からも、健康診断や環境測定の結果をどのように評価につなげればよいかとか、歯科保健も考慮した研究活動の必要性があるのではないといった質問も出され、会話が弾みました。そうした話題の中で、尾島先生が私と同郷の生まれで、しかも同じ中学校の同窓であることがわかり、個人的にも印象深い研修会となりました。

2017年度東海地方会産業技術部会特別企画研修会開催報告 「粒子状物質の今を考えるー粉じん障害を防止するためにー」

愛知教育大学 保健体育講座 榊原洋子(衛生管理者)



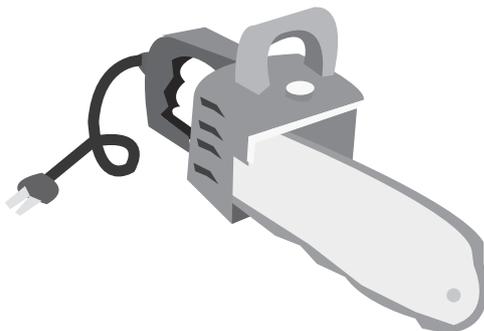
2017年12月16日に、今回で9回目となる東海産業衛生部会特別企画研修会を、中部大学名古屋キャンパスにて開催しました。今回の企画テーマを決めたきっかけは、年度初めの部会世話人の頃に、国内化学工場

において高分子化合物を主成分とする粉状物質に高濃度曝露した労働者の様々な肺疾患事例が顕在化し、「今学ばなければいけないこと」を互いに感じたからでした。

第一部は、旭労災病院の宇佐美郁治先生に「粉じんの健康影響について」と題して、粉じんの健康影響に関する基礎的な知見についてレクチャーいただきました。今回「じん肺」について詳しく学ぶことで、不可逆的の疾病であり、現在もなお2000人近いじん肺発症者がいることなど、あらためて理解が深まりました。第二部は有機粉じんに関する最近の話題ということで、労働安全衛生総合研究所の小嶋純先生に「木材粉じん曝露とその対策について」というテーマで講演をしていただきました。木材粉じんによる健康影響に対する最新の話と木材加工作業に伴って発生する粉じんの粒度分布や効果的な粉じん飛散防止と曝露対策について、丁寧な説明がありました。サンダ作業における局所排気

の吸引用フードの方向と位置(側方、上方、内部、間隙)とその効果の検証した実験動画は大変説得力があり、作業管理や安全衛生教育の手法としてすぐにも役立てられそうでした。三菱ケミカル(株)四日市研究所の矢次豊先生からは、「樹脂の製造工程について」として、樹脂の多様な重合様式、製品形状、物性といった基礎的なことから、ポリエステル樹脂とアクリル樹脂を例に、重合方法と製造工程に合う安全管理ポイント(静電気対策、不活性ガスの導入、酸素の遮断)や作業への曝露対策(無人化、隔離、局排、保護具)についてお話しいただき、後半には、企画テーマの設定のきっかけとなった労災事例について、製品の製造工程で中間体として使われる単量体(モノマー)や不純物として含まれていた重合体や架橋構造体について解説いただきました。

3人の先生のお話を聞いた後、現場の作業環境測定士という立場から、当技術部会土屋真知子先生に指定発言をいただきました。モノづくりの盛んなこの地域の産業衛生スタッフとして、常に進化する素材と製造フローに向かい合い、衛生リスクの高いプロセスを見つけて出し、たとえコントロール困難な中でも、初心に返って学びながら解決しようとする使命感を刺激していただきました。本企画の直前には厚労省通達「粉状物質の有害性情報の伝達による健康障害防止のための取組について(H29.10.24付)」もあり、研修での学びをいかに実践するのかと、予定されたセッションの後も活発な議論が続きました。



産業看護部会研修会開催報告

「本部との懇談会 & 健康経営における産業看護職の役割」

東芝メモリ(株) 四日市工場 保健師 高崎正子



2018年1月13日、産業看護部会本部との懇談会及び研修会を開催しました。今回テーマへの関心が高かったのか、86名という例年の倍近くの方々にご参加いただきました。

午後の部1「産業看護部会本部との懇談会」は、今年で4年目を迎えましたが、産業保健看護専門家制度についての認識や理解が深まっている一方で、東海地方での登録者がまだまだ少ない現状となっています。そこで上記参加者の声を受けて、2019年1月の登録者試験を東海地方で受験出来るよう、現在準備を進めています。開催が決定次第、情報配信していく予定です。

午後の部2「講演会：健康経営における産業看護職の役割」では、産業医科大学 森晃爾先生から「健康経営とこれからの産業看護職に望むこと」、アサヒビール 住徳松子先生から「健康経営における産業看護職の役割を知る」を、それぞれテーマとしてご講演いただきました。

森先生のご講演では、健康経営の背景と企業にとっての推進の目的⇒企業における健康経営の進め方⇒健

康経営の本質的改題⇒産業看護職に望むこと⇒健康経営のゴールといった一連の流れのある簡潔かつ明瞭な語り口に、これまで自分から遠いと感じていた健康経営について身近に感じることが出来たとの感想を多くいただきました。特に産業看護職の役割については、組織内での立場や役割によって異なるものの、専門機能としての実践、プログラムの提供管理、課題分析、計画立案、目標設定・評価、体制構築、専門機能の統括が求められており、その役割を果たすためにも、健康課題の抽出には分析力、プログラムの提案には企画力・共通の言語・プレゼン力、プログラムの実践には実践力・マネジメント力が必要と具体的に示唆いただいたことで、目指すべき方向性について理解できたという声が多く聞かれました。引き続いての住徳先生のご講演では、これからの産業保健師は、自らが投資される価値のある人材と企業からも社会からも評価されるよう、学術的実績を示せる自己研鑽が求められる一方、産業界の趨勢や業態の動向、自社の中長期的な展望を理解し、産業保健が経営に与える影響を経営層と議論できる実力を身に付ける必要があるとご自身の実践活動を通じて述べられました。参加者自身が日々の活動をしていく中での振り返りや活動の意欲に結び付く大変貴重な機会となりました。



会場風景

第 30 回産業保健スタッフのための研修会を終えて

名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻 地域・在宅看護学領域 渡井 いずみ



2018年1月27日(土)に安保ホールにて、第30回産業保健スタッフのための研修会を開催させていただきました。会場周辺に雪が残る厳寒にもかかわらず、81名(会員44名・非会員37名)の方にご参加いただき、充実した研修会となりました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

今回の研修会のテーマは「海外勤務者の健康管理」としました。グローバル時代を迎え、製造現場の技術・技能職の海外出張者や駐在者も激増しています。製造業を中心とする東海地方ならではの海外勤務者の健康課題や支援のあり方を考える機会となることを目指しました。東海地方会長の斉藤先生のご挨拶に始まり、教育講演では、大越裕文先生(元日本航空首席医師、渡航医学センター西新橋クリニック院長)より、「海外勤務者の健康管理-問題点と支援のありかた」と題して、海外勤務者の健康管理に関する法的な位置づけ、海外赴任に伴う健康リスク、企業にとってのリスク、活用できる資源(国内外の施設、トラベルクリニック)と健康支援ネットワークの必要性等について、非常に実践的かつ網羅的にお示しいただきました。引き続き、パネルディスカッション「企業からの海外渡航者に対する具体的な支援について考える」では、内野文吾先生(ヤマハ発動機株)から「産業医の視点から見た支援の実際」、工藤香奈先生(イビデン)から「看護職の役割～海外巡回の健康相談を通して」、青山行彦先生(青山歯科室)から「海外渡航者への歯科指導のポイント」、齋藤禮先生(株

ウェルビーマークETINGジャパン)から「海外医療コンサルタントによる支援」をお話いただきました(座長：上原正道先生(ブラザー工業株)、酒井秀精先生(シャープ株))。異なる視点・立場からの海外勤務者への具体的な支援を紹介していただいたことで、会場からも多くの質問が寄せられ活発な意見交換となりました。

本研修会を通じて、海外で働く従業員の健康管理に関する社内方針やコンセンサスを構築することが必要であること、海外も含め社外の様々なリソースを組み合わせることで支援ネットワークを作ることが効率的であること、労働安全衛生法の範疇外ではあるが企業の安全配慮義務は生じること、などを学びました。また本研修会は無料で受講できる公開の研修会であるため、看護職を中心に非会員の参加者が多くみられました。研修会参加をきっかけに当学会に魅力を感じて、入会者が増え本東海地方会の発展に繋がることを願ひまして結びの言葉とさせていただきます。



パネリストの先生方

大越裕文先生



大越裕文先生



会場風景

東海地方会産業医部会からのご報告

平成 29 年度 東海地方会産業医部会懇話会に参加して

愛知医科大学産業保健科学センター 成 定 明 彦



2018年3月10日(土)、ウイנק愛知(名古屋市)で開催されました産業医部会懇話会に参加いたしましたので、ご報告させていただきます。

第1部では、信州大学産業衛生学講座の教授に就任されました塚原輝臣先生から、「産業医活動と衛生学、公衆衛生学」と題したご講演を賜りました。地域医療を志していた高校生の頃にまで遡って、ご自身の産業医そして研究者としてのキャリアとご活動を紹介いただきました。公衆衛生の中の産業保健の位置づけ、カドミウム研究やメンタルヘルス調査など先生ご自身の幅広い研究成果、そして産業保健活動や研究活動を行う中でのコミュニケーションの重要性の話と、どの話も興味深く、大変勉強になるご講演でした。



塚原輝臣先生ご講演

第2部では、会員活動報告として、3名の先生方からご自身の産業医活動に関するご報告をいただきました。

報告1として、道井聡史先生(本田技研工業 鈴鹿製作所)から「より広がる産業医活動に向けて」と題したご報告をいただきました。先生ご自身の略歴やこれまでの産業医活動を振り返ったうえで、



道井聡史先生ご報告

現在の事業所での「生涯現役に向けた健康づくり」をテーマとした産業保健活動の実践や腰痛対策といっ

たこれからの抱負を発表いただき、大変刺激になるご報告でした。

報告2は、平野貢先生(豊田自動織機 刈谷工場)によるご報告で、「現地現物の考えを産業医活動に」でした。「産業医が現場に行っていないのではないか」という問題意識のもと、事実(「現場」「現物」「現実」)に即して物事を客観的にみる姿勢の大切さを、医師になる前のサラリーマン時代のエピソードなども織り交ぜて、大変わかりやすく説得力がある発表していただきました。



平野貢先生ご報告

最後の報告3では、足立留美子先生(アールエイチ産業医事務所)から「専属産業医から嘱託産業医へ～女性産業医のワークライフ



足立留美子先生ご報告

バランスの模索～」と題したご報告いただきました。大学の公衆衛生研究者から専属産業医となり、その後自身の産業医事務所を開くに至るキャリアをその折々に自身の思いと

ともにご紹介いただきました。その中で鉛対策、メンタルヘルス対策、震災対応と、その折々に事業所が直面した課題に産業医として真摯に向き合っておられた姿も大変印象的でした。

今回ご講演・ご報告いただいた先生方いずれも、ご自身のキャリアを通じて得た思いが、産業保健などの実践活動と結びついたものになっており、大変説得力があると同時に、自分自身の今後の活動の励みをえた1日でした。



懇親会様子

産業疲労研究会 第 87 回 定例研究会

看護と介護の現場と産業疲労研究者との対話～産業疲労研究を現場に活かす～

日本福祉大学看護学部 水谷 聖子



産業疲労研究会第 87 回定例研究会を 2017 年 10 月 15 日(日)に日本福祉大学名古屋キャンパスで開催しました。今回は、企画担当を担い、『看護と介護の現場と産業疲労研究者との対話～産業疲労研究を現場に活かす～』をテーマとして開催しました。

当日は、一般演題 5 題の発表に続いて、本テーマによるシンポジウムを開催しました。座長は本研究会世



会場風景

話人の塚田月美氏(MTG 株式会社 保健師)と久保智英氏((独)労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所)が務め、看護から『交代勤務で働く看護職の職場の現状と課題』として植村真美氏(公立西知多総合病院副院長兼看護局長)、介護は、則竹宏亮氏(社会福祉法人昭徳会 特別養護老人ホーム小原安立グループリーダー 認知症介護指導者 介護福祉士・介護支援専門員)に『福祉現場の労働を取り巻く疲労の現状と課題』について 24 時間体制、ジェネラスタッフ、管理スタッフへの配慮や支援の実際について伺うことができました。産業疲労研究者からは久保智英氏に『介護・看護の現場における疲労と睡眠』についてご登壇いただきました。シンポジストの一人一人の仕事に対する熱き想い、専門職としての誠意、たゆまない尽力などヒューマンサービス労働の現状と産業保健について改めて考える時間になりました。

看護系の大学の増加や看護専門職能団体の活動により、看護学教育や研究は発展し、現場も少しずつ改善してきました。しかし医療現場における産業保健活動はまだまだ発展途上の段階です。超高齢社会を迎える日本における介護や看護を取り巻く労働環境の改善は大きな課題であり、産業保健の視点からのさらなる探究が望まれることを痛切に感じました。

第 18 回作業関連性運動器障害 (WMSDs) 研究会 開催報告

名古屋市立大学・院・医・環境労働衛生学 榎原 毅



2017 年 12 月 2 日(土)に名古屋市立大学医学部付属病院会議室にて標記研究会を開催しました。ミニシンポジウムとして「センサー技術が拓く WMSDs 解析の新アプローチ」をテーマに、ウェアラブルセンサーを用いた作業姿勢・作業負担計測やスマホ・センサー技術を活用したライフログ・データ解析の手法などについて最新情報を紹介し、意見交換が行われました。一般演題は計 8 題の発表があり、筋骨格系障害に関する実態調査、現場介入事例や負担軽減策や症例報告から、作業

負担の視覚化技術など、学際領域の幅広いテーマについて報告があり、貴重な意見交換の場となりました。参加者計 36 名のなかで、特に理学療法士の方の参加が多く、産業理学療法士の作業管理への参加が今後期待されました。



会場風景

第 31 回東海地方会・振動障害研究会

名古屋大学大学院医学系研究科 榎原久孝



第 31 回振動障害研究会は、2018 年 1 月 20 日(土)に名古屋大学医学部保健学科会議室にて、21 名の参加で開催されました。今回は、全国学会の振動障害研究会と共催で開催され、発表演題も 5 題あり、発表内容も豊富で、活発な議論がなされ

れました。

1. 「様々な振動工具の測定結果から」池田和博(北海道安全衛生研究所)、これまで測定された様々な工具の測定結果を、作業現場の写真も示して工具振動の状況が報告されました。

2. 「振動工具のロボットアーム利用と低振動・静穏化」渡部幸雄(アピュアン株式会社)、エアー工具の低振動化への取り組みに加え、ワンショット操作による低騒音化への取り組みの紹介があった。低振動工具の市

販化へ向けた紹介もされました。

3. 「三軸振動に対する防振手袋の振動軽減効果について」柴田延幸(労働安全衛生総合研究所)、防振手袋の振動軽減効果について、実際に手袋装着時の手にかける振動軽減効果を測定・評価する方法の検討内容、および実際の軽減効果について報告されました。

4. 「振動障害に対するマルチパラメータ評価法の検討」蔭山逸行、増田宏、石竹達也(久留米大学医学部環境医学講座)、振動障害の異常の早期発見のために、皮膚血流、表面皮膚温、指尖脈波、深部体温、発汗、心電図、蛋白解析(ストレス測定)などマルチパラメータ評価法を活用した取り組みの紹介がされました。

5. 「林業労働における振動工具使用者に見られた筋萎縮症例の検討」三宅成恒(京都市城南診療所)、尺骨神経麻痺・筋萎縮のみでなく、上肢三角筋や上腕筋など上肢・体幹部で見られた筋萎縮の紹介があり、センサー使用による頸椎影響の可能性が報告されました。最近は工具改良によりこれら筋萎縮症例はほとんど見られないとのことでした。

第 25 回日本産業ストレス学会開催報告

浜松医科大学医学部看護学科 地域看護学講座 巽 あさみ
ジヤトコ株式会社 安全健康管理部 統括産業医 西 賢一郎



2017 年 12 月 8 日(金)・9 日(土)に第 25 回日本産業ストレス学会を、メインテーマを「ストレス社会における産業保健・産業看護～一次予防へのパラダイムシフト～」とし、静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)に於いて全国から 850 名余の参加者をお迎えし開催いたしました。

メインシンポジウムでは愛知医大の小林章雄名誉教授から職場のストレス対策について、パラダイムは一方向に向かうものではなく全体として活性化させる重要性を、大同特殊鋼の齊藤政彦先生からは職場環境改善には担当者の熱意・トップの本腰などの上に産業保健職がアドバイザー等として機能することを、東京工

科大学の五十嵐千代教授からは、ストレスチェックの集団分析を個人結果と統合しながら職場や人事にフィードバックする必要性を、筑波大学の太塚泰正教授からは、欧州 PRIMA-EF、英国の Management Standard for Work-related Stress、米国 NIOSH の取り組み等の紹介と日本の文化や風土などに合わせたストレス対策の重要性についてご発表があり、一次予防への今後の方向性への示唆が得られたと思われます。教育講演では川上憲人東京大学大学院教授からメンタルヘルス支援における真のリーダーシップとイノベーションの推進に関するご講演をいただき、勇気をもらうことができました。その他教育講演 2 題、特別講演、産業看護職・産業心理職の各委員会企画シンポジウム、ストレスチェックの実態と問題点、富士モデル事業の仕組みと成果のシンポジウムなど、学際的な研究視点から、人々が生き生きと働ける職場づくりをめざした一次予防について議論が熱心に展開されました。

本大会を成功裡に終了できましたことは、本学会の開催にあたり、ご指導、ご協力いただきました皆様方のおかげと深く感謝申し上げます。

受賞記事

日本産業衛生学会奨励賞の受賞報告

三菱重工業(株) 大江西健康管理科 産業医 石川 浩 二



このたび、日本産業衛生学会奨励賞を受賞致しました。歴代受賞者一覧を拝見し、自分が受賞していいのか?と疑問を抱きつつ、奨励賞とは「今後への期待や激励などの意味を含めて授与される賞」と理解し、素直に喜んでおります。さて今回の受賞により、名市大の榎原毅先生、JR東海の遠田和彦先生に次いで、本東海地方会で3年連続の受賞となり、本地方会の発展に少し寄与できて大変嬉しく存じます。

折角投稿の機会を頂きましたので、本ニュースと筆者の関わりを紹介させていただきます。前回の投稿は、2012年5月「第85回産業衛生学会でのシンポジウム企画者として」でした。その後6年ぶりの投稿です。地方会ニュース編集委員会では、谷脇委員長のもと委

員を数年担当し、大した仕事もできないでいた頃、当時地方会長の柴田先生が約2年委員長を兼任され、その後、筆者が編集委員長の大役を仰せつかりました。80号(2013年7月発刊)から84号(2015年7月発刊)までと短期間でしたが、以下のような工夫をしました。

①執筆者の選定の参考とするため歴代の執筆者一覧表を完成。

②編集委員会を委員の出席率向上および委員の負担の軽減のため理事会と同一日に開催。

③過去ニュースをHPへ掲載。ただし在任中は直近10号程度まで。その後の西谷委員長時代に完成。(実務は新日鐵住金の守田祐作先生に対応頂きました。)

そんな中、現地方会長の斉藤政彦先生から、医部会の東海地方会の部会長を、と任命され、やり残し感のある中、委員長を西谷先生へ引き継ぎ、その後池田先生が継いで頂いております。さらなる本ニュースの発展を祈念し、今後も地方会の発展に努めていきたいと思ひます。

緑十字賞、その重みを実感して



このたび、緑十字賞を受賞するという栄誉を授かりました。大同特殊鋼(株)の専属産業医になって二十年、区切りとしての受賞に深く感謝しています。振り返ればいろいろなことがありました。

当初、診療所に一人ポツンと、することもなく話し相手もおらず、無性に寂しく、辞めたい、と何度も思いました。寂しさと不安を解消したいと、産業衛生学会へ積極的に参加するようになりました。学会等で知り合った方々には大変お世話になりました。それがあってここまでやってこれたのは事実です。企業という医療関係者にとって異質な世界で踏ん張っていくためには、横のつながりが何にも増して大切と考えます。

緑十字賞は、中央労働災害防止協会のホームページに「長年にわたり我が国の産業安全又は労働衛生の推

大同特殊鋼(株) 統括産業医 斉藤 政彦

進向上に尽くし、顕著な功績が認められる個人及び職域グループ等に対して贈り、これを表彰しています」とあります。私以上に職場の安全衛生に貢献した人はたくさんいらっしゃいます。ですから今回の受賞は大変恐縮に感じています。

表彰式は、多くの関係者が集まった中で行われました。その後の祝賀会では各方面の方から祝福を受け、さらに個人的に多くの方々からお言葉をいただき、その重さを実感した次第です。今回の受賞は、日本産業衛生学会における活動を評価していただいたことが大きいと考えています。今後も受賞に恥じないように頑張りたいと思ひます。

引き続き、皆様のご指導並びにご鞭撻を宜しくお願ひ致します。

写真は、いただいた賞状、楯、バッジです。



会 員 の 声

保健師としての日々

富士電機(株) 三重工場 健康管理センター 保健師 今石 美沙季



皆様、はじめまして。2017年4月より、富士電機株式会社・三重工場の健康管理センターで保健師をしております、今石です。

大学卒業後、約5年間は、総合病院で看護師をしておりました。学生時代から興味があった産業保健分野に転職を希望し、保健師としての生活がはじまりました。

富士電機株式会社三重工場では、自動販売機やオープンショーケースを製造しています。実際のものづくり現場をみたときは、多くの工程を経て自動販売機が完成していく姿に、とても感動しました。その感動からあっという間に、1年が経過しました。

病院とは大きく異なる環境で、期待と不安が入り混じる日々でした。しかし、産業保健スタッフをはじめと

する従業員の方に支えられ、失敗することもあります。日々成長することができていると感じています。

日常の業務では、長時間労働者への面接や保健指導を主とし、健康づくりの案内や職場巡視などを行っています。保健師としての業務を実施するなかで、自分自身の未熟さを感じる事が多くあります。もっと効率的で有効的な業務ができるように、外部の研修などにも参加させてもらい、勉強中です。

また、健康や安全を考えるなかで、会社の組織や職場環境をよく理解することの重要性を感じています。異動者や組織変更が多く、今は状況についていくことに必死になっています。2年目はもう少し、余裕ができることを期待しています。

これからも、産業保健スタッフや従業員の方から信頼してもらえるように、日々努力し、成長していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

卒後 20 年目に飛び込んだ産業医の世界

矢崎部品株式会社 ものづくりセンター 産業医 白岩 幹 正



はじめまして。静岡県牧之原市・矢崎部品ものづくりセンターにて嘱託産業医として2017年4月より勤務開始、2期目に入っております、白岩幹正と申します。

静岡県沼津市で、富士山・駿河湾を眺め伊豆と箱根に抱かれながら育ち、島根県出雲市の島根医科大学で学び、温暖な気候を求め静岡へ戻って参りました。

卒後は産婦人科医として、24時間365日見えない鎖に繋がれ、いつ倒れてもおかしくない時代もありましたが、貴重な経験として今の仕事の面談で語ることも出来ていますので、人生に無駄なものはないのでは、と感じています。

産業医資格は、将来役に立つときが来るから、という恩師の薦めもあり2004年12月に産業医大で受講し、取得後12年は更新講習のみペーパー産業医でしたが、時代の変遷を感じ取ることもできましたので、実際に産業医を開始するに際しても抵抗なく入って行け

たように思います。縁あって静岡産保産業医カンファレンスのメンバーにも加えていただき、交流会では貴重な耳勉強という情報を持ち帰っては、自分で調べ現場に還元できるようにしているところです。

この一年は、健康診断・健康指導に始まり、メンタル不調者との面談で脳を消耗し、復職支援のイメージづくり・提案など、新しい世界をどの様に理解・解釈し、どう導いていけばよいのか悪戦苦闘しながらも、無事に復職が進むと関係者で喜びを分かち合ったりすることも出来ました。弱った男性に対して優しく接することができるのか?当初の不安も、今はクリアできていると感じています。

2年目に入り、企業さんに求めるもの・提案が必ずしも好まれるものではない、ということも実感し始めていますが、自分の立ち位置としては企業の利益ではなく、迷えるか弱き労働者の側に立って物事を考えていければ、と思っています。また、今期は労働衛生コンサルタントの取得にチャレンジしますので、業務含め、泣き言・へこたれそうになったら御助言・御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

入会のご挨拶

三菱電機株式会社 名古屋製作所 総務部 衛生管理者 **石松 宗二**



この度、東海地方会に入会させていただきます。石松宗二(いしまつ しゅうじ)と申します。

私は 2004 年に産業医科大学産業保健学部(現、環境マネジメント学科)を卒業後、労働衛生機関に入社し作業環境測定士として4年間職務に従事した後、現在は企業の安全衛生管理等に関わる業務に従事しています。弊社、名古屋製作所は、産業用モータや産業用ロボット、工作用加工機等、工場における生産工程の自動化を支援する機器(FA 機器)を開発・生産している拠点であり、昨今では、製造業のIoT、AI活用ニーズの高まりにも寄与すべく企業活動を行っております。

昨今、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少等を背景に「働き方改革」の推進が国を挙げて取り組まれています。経営側が如何に労働時間の削減を叫んでも活動の当事者(従業員)がその趣旨を理解していないと真の目的(生産性の向上)は達成されません。これら活動

をより効果的なものとするためにはトップの明確な意思表示とボトムでの主体的な取り組みといった両輪での活動が必要不可欠となります。

安全衛生管理の分野においても同様なことが言えるのではないのでしょうか？

安全配慮義務履行の手段の一つとして、リスクアセスメントが推進されていますが、団塊の世代の退職や雇用形態多様化に伴う従業員構成の変化等によって従来の管理側の一方的な管理手法では安全衛生管理も立ちいかなくなっています。危険・有害要因の「調査」に必要な知識付与を行い、抽出された課題については、経営陣に課題解決の必要性を説き、経営判断を下してもらおう。こういった「トップ」と「ボトム」の両輪の活動を効果的に推進できるよう、スタッフとしてパイプ役を担っていきたいと思います。

当地方会入会を契機とし、会員の皆様からご指導いただきながら、自身のスキル向上・人的ネットワークの更なる構築を目指していきたくと考えておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

新規加入のご挨拶

本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所 健康管理センター 産業医 **道井 聡史**



2017年度より日本産業衛生学会東海地方会へ入会しました道井と申します。私の簡単な経歴としては、大学を卒業し2年間の臨床研修を行った後は産業保健の道に進み、製鉄業での専属産業医を1年間、産業医科大学

での研究および嘱託産業医を2年間経験した後に2017年4月に常勤産業医として入社しました。

弊社は、四輪・二輪や汎用製品のみならず、最近では航空分野にも進出した総合モビリティメーカーです。その中でも鈴鹿製作所は、軽自動車を中心とした国内最大規模の四輪製造拠点として、従業員数は7000名を越えております。製造ラインはエンジンの鑄造工場も存在すれば、車体部品のプレス・溶接・塗装・組立・検査工程が存在し自動車の製造工程のほぼ全てを網羅した国内でも大変珍しい事業場です。それに伴い、産業保健的な視点から見ればライン作業としての交替勤務

はもちろん、粉じん・有機溶剤・特化物・筋骨格系疾患・騒音などの多種多様な有害業務が存在しております。事業場内では以前から健康診断や外来も行っているため、産業看護職の皆様はあらゆる業務を日々こなしており、その多忙さに頭が下がる思いです。

私が入社して1年間が経ち、事後措置として従業員の方々と面談を行ったり、職場巡視した箇所も増えたりとようやく業務に慣れつつありますが、私自身の力不足なところから「予防」の観点からの活動に幅を広げることが十分にはできませんでした。現在の産業保健活動をより充実させた上で、働く人自身が「面白い」・「楽しい」といった積極的な気持ちから自分自身の健康を作り上げる雰囲気社内を展開できないか、会社メンバーとともに今後練り上げていきたいと考えております。そのためにも東海地方会の皆様から叱咤激励をいただきつつ一歩一歩進んでいきますので、今後のご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

事務局から

地方会理事会

平成 29 年度第 3 回理事会

日時：平成 30 年 1 月 20 日 (土) 10:00-11:40

場所：名古屋市立大学 桜山 (川澄) キャンパス

医学部基礎教育棟 5 階 講義室 3

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
 - 1) 事務局体制について
(平成 29 年度の反省と今後)
 - 2) 平成 30 年度活動計画について
 - 3) 平成 30 年度予算案について
 - 4) 社会医学系専門医制度について
 - 5) 各部会、委員会、研究会の会計管理について
 - 6) 地方会ニュースの委託先変更について
 - 7) 理事会参加時における交通費について
 - 8) 学術研究支援制度について
 - 9) 選挙制度、および選挙の今後の予定について
 - 10) 次回の理事会日程について
 - 11) その他
- III. 報告事項
 - 1) 第 30 回産業保健スタッフのための研修会
準備報告
 - 2) 平成 29 年度地方会学会開催報告
 - 3) 第 30 回医学会総会 (名古屋) に関して
 - 4) 本部理事会報告
 - 5) 地方会事務局報告
 - 6) 地方会活動方針検討委員会
 - 7) 学術研究推進委員会
 - 8) 編集委員会
 - 9) 研修会企画委員会
 - 10) 表彰制度推薦委員会
 - 11) 部会報告
 - 12) 研究会報告
 - 13) 各県の活動報告
 - 14) その他報告事項
 - 15) 関連学会等開催情報
 - 16) その他

平成 30 年度第 1 回理事会

日時：平成 30 年 7 月 14 日 (土) 10:00-12:00

場所：中部大学 名古屋キャンパス 5 階 510 号室

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
 - 1) 本部経理について
 - 2) 地方会経理について
 - 3) ホームページの運用に関して
 - 4) 選挙制度、および選挙の今後の予定について
 - 5) 次回の理事会日程について
 - 6) その他
- III. 報告事項
 - 1) 第 30 回産業保健スタッフのための研修会
開催報告
 - 2) 平成 30 年度地方会学会準備報告
 - 3) 平成 30 年度地方会総会について
 - 4) 本部理事会報告
 - 5) 地方会事務局報告
 - 6) 地方会活動方針検討委員会
 - 7) 学術研究推進委員会
 - 8) 編集委員会
 - 9) 研修会企画委員会
 - 10) 表彰制度推薦委員会
 - 11) 部会報告
 - 12) 研究会報告
 - 13) 各県の活動報告
 - 14) その他報告事項
 - 15) 関連学会等開催情報
 - 16) その他

会員状況

平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日の推移
(平成 30 年 5 月 31 日時点)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
新入・再入会員	22	15	6	1	44
転入会員	5	1	1	0	7
地方会内転入	2	0	0	0	2
退会会員	-37	-16	-7	-7	-67
転出会員	-6	-2	-2	-1	-11
地方会内転出	0	0	-1	-1	-2
増減	-14	-2	-3	-8	-27
本部正会員	469(1)	219	105	37(1)	830(2)

※ () はその内の学生会員数を表す

これからの行事予定

平成 30 年度地方会学会

日時：2018年11月24日(土)
 場所：中部大学名古屋(鶴舞)キャンパス
 三浦記念会館
 テーマ：13次防への期待
 -産業保健のボトムアップを目指して
 特別講演：13次防への期待
 -13次防の概要と目指す方向
 愛知労働局 担当者様

第 28 回日本産業衛生学会全国協議会

会期：2018年9月14日(金)～16日(日)
 場所：東京工科大学蒲田キャンパス
 3号館・12号館・片柳アリーナ
 テーマ：働き方の変革期における戦略的産業保健
 ～すべての働く人々の健康のために～

第 77 回日本公衆衛生学会総会

会期：2018年10月24日(水)～26日(金)
 場所：ビッグパレットふくしま
 テーマ：ゆりかごから看取りまでの公衆衛生
 ～災害対応から考える健康支援～

日本産業看護学会 第 7 回学術集会

会期：2018年11月3日(土)～4日(日)
 場所：ウイングあいち
 テーマ：超高齢社会における産業看護の役割
 -健やかなる Aging のために今できること-

第 26 回日本産業ストレス学会

会期：2018年11月30日(金)～12月1日(土)
 場所：一橋大学 一橋講堂
 テーマ：働き方の未来と産業ストレス

東海地方会産業看護部会研修会

日時：2018年12月2日(日)
 テーマ：業務に役立つ文書作成
 ～産業看護職としてのスキルを磨こう～

第 92 回日本産業衛生学会

会期：2019年5月22日(水)～25日(土)
 場所：名古屋国際会議場
 テーマ：現場への貢献！人、企業、社会を支える

編集後記

日本の生産年齢人口は、1995年をピークに減少、総人口も2008年をピークに減少しています。この傾向は、今後ますます加速すると予測されています。働く人々の確保が重要な課題といえます。生涯、健康で働けるよう、また高齢者でも、子育て中でも、家族の介護中でも、たとえ病気の治療中でも働きたい人が働ける仕組みづくりや環境整備、支援体制がより一層望まれます。産業保健に携わる関係者の連携・協働とともに人材育成がさらに必要だと強く感じています。

西谷 直子

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子(キヤノン)
 副編集委員長：西谷 直子(名古屋大学)
 編集委員：赤津 順一(日本予防医学協会)
 榎原 毅(名古屋市立大学)
 河南 文子(富士電機)
 後藤 由紀(四日市看護医療大学)
 近藤 祥(聖隷健康診断センター)
 榊原 洋子(愛知教育大学)
 菅沼要一郎(浜松ホトニクス)
 城 憲秀(中部大学)
 山本 誠(ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTBビル 7F
 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
 ミーティング&コンベンション事業部内
 FAX: 06-4964-8804 E-mail: jsok-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1
 有限会社トータルマップ
 TEL: 079-433-8081 FAX: 079-433-3718